

1 スクール・ミッション、学校教育目標
＜スクール・ミッション＞ 計画的・効果的なキャリア教育を推進するとともに、実践的・体験的な教育活動や、地域・社会と連携・協働した教育活動等を通して、知・徳・体の調和がとれ、チャレンジ精神を備えた、地域・社会の活性化に主体的に貢献できる人材を育成します。 校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同 教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成 育てたい生徒像 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒

2 スクール・ポリシー	
グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)	・高い志と使命感をもち、社会に貢献する生徒を育成します。 ・心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジするたくましい生徒を育成します。 ・互いに協力しながら、主体的に行動する生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	・進学に対応した教育課程を編成し、少人数指導によるきめ細かな指導やICTを活用した授業等を行い、学習習慣を定着させ学力向上につなげます。 ・系統的、計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりの進路実現を図ります。 ・諸課題の解決に向けた探究活動やボランティア活動を通して、社会的意識を高め、地域への貢献を図ります。
アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	・将来への目的意識をしっかりとち、進路実現に向けて積極的に勉学に取り組む生徒を募集します。 ・本校の校風である「文武両道」の精神を理解し、自分の将来の夢に向かって努力する生徒を募集します。

3 現状分析
本校は「『文武一徳』の人づくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者に浸透しており、学校に対する信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を精力的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。 一方、進学実績については、国公立大学や有名私立大学の合格者の割合はやや増加傾向にあるものの、生徒が幅広い選択の中から大学進学に対応できるよう学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。そのために学習時間を確保する中で生徒の学力を高め、ＩＣＴなどを効果的に取り入れた授業改善など学力伸長のための具体的手立てを学校全体で取り組む必要がある。さらに、大学関係者やＯＢなどを活用した取組やオープンキャンパスなどのような外部との連携を図るなどキャリア教育の充実を図りながら進路意識を高めることを継続していくべきである。 また、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対しては、個別の教育相談や指導・支援について、早期対応に重点を置きながら組織的に進めていく必要がある。

4 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
【令和6年度の重点目標】「生徒の主体性を育み、一人ひとりの夢を実現する豊浦」 1 地域から信頼される魅力ある学校づくり 2 生徒一人ひとりの進路実現に向けた学力の向上 3 学校における働き方改革の推進 【令和6年度チャレンジ目標】 「 豊浦一風 ～未来へ繋がる革新を～」

5 自己評価						6 学校運営協議会	
評価領域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	委員からの意見・要望等	分類
教務	授業力の向上	新学習指導要領で求められる力を高めるため、研究授業や研修、授業アンケート等を通して授業改善を促進する。	授業力向上のために、研究授業や、研修に参加した教員が	3	今年度は、校内での研究授業を、中高連携での取組、若手教員の研修に合わせて実施し、新学習指導要領で求められる指導の研修や改善に取り組んだ。また、県内で開催される教科研修会や他校の授業に参加した教員も複数名おり、授業力向上に取り組んでいる。ICT機器の利活用の向上も求められており、生徒の学習意欲や思考力が向上する方法を十分に考え、効果的で効率的に活用することが大切であるとする。	授業改善は「主体的・対話的で深い学び」を目指し、小中学校の連携が重要である。互いの授業見学やICTを活用した授業動画の共有が有効である。研究授業に全教員が参加し、授業アンケートをPDCAサイクルに活用することが求められる。生徒の興味を引き出し、学習意欲を高める指導方法の向上に取り組む。ICT機器の活用は各学校のテーマであり、他校の授業参加が参考になる。本校では低学年からの学習意欲向上が課題である。	A
			4: 100%であった。 3: 80%以上であった 2: 60%以上であった 1: 60%未満であった。				
生徒	社会性とコミュニケーションスキルの育成	生徒会活動や課外活動を中心に、社会奉仕活動に積極的に取り組み、地域に愛される学校づくりをめざす。その際、校内外での挨拶、地域、教師と生徒及び生徒同士の対話を通じ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が	4	長府時代祭、長府城下町マラソン、長府寺子屋、長府地区文化祭、長府警察署防犯啓発活動、長府警察署交通安全運動、御船手・三軒茶屋海岸清掃活動、下関海峡マラソン等、JRC部や各部活動を中心として地域活動に意欲的に取り組んだ。特に長府地区のイベントに関しては、各団体からの積極的な参加呼びかけもあり、多くの生徒がボランティア活動を行った。今後も生徒達が積極的に地域社会に貢献し、社会性とコミュニケーションスキルを身につけていけるよう指導していきたい。	AFPYなどの人間関係づくりの活動を積極的に取り入れ、地域との関わりを深めることは、生徒の成長に役立つ。ボランティア活動への参加は高く評価され、不応の早期発見・対応が重要である。教育相談の負担軽減も必要である。自転車運行マナーの指導と自転車保険加入の徹底をお願いする。生徒会活動に積極的に参加する生徒の姿勢は素晴らしい。	A
			4: 15件以上だった。 3: 10件以上だった。 2: 5件以上だった。 1: ほとんどなかった。				
	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。交通安全教室を実施する。登校指導を実施する。危険通学路箇所指導を実施する。全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内、かつマナーの徹底ができた。 3: 計画どおり指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画どおり指導ができたが、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがあまり守られなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られなかった。	3	自転車安全点検と交通安全教室は予定通り実施し交通安全についての生徒達の意識を高めた。今年度よりヘルメットの着用が努力義務化された影響で自転車通学の生徒が減少した。以前から通学危険箇所として外部の方から頻繁に連絡が入っていた滑石交差点下については、長府警察署の交通課と協力し何度か立哨指導を実施した。その後、滑石交差点の改修工事完了をうけて、下関市役所、長府警察署と協議し通学路の変更を行い、生徒達に周知した。それ以後現在まで外部からの連絡は入っていない。自転車対自家用車の事故が目立つ、一旦停止による周囲確認不足やスピードの出し過ぎが原因と考えられるので今後重点的に指導していきたい。		
			高校生活への適応と心の健康の保持 〔教育相談室〕				

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	毎月の学習記録表や年3回の進路希望・学習量調査を通じて、主体的な学習への取組を促す。	家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が 4：80％以上であった。 3：60％以上であった。 2：40％以上であった。 1：40％未満であった。	3	毎月の学習時間記録票により、毎日の学習（学習時間や教科・科目）の取り組み具合を把握している。担任によって取り組み方はまちまちである。12月末の学校評価アンケートで「家庭学習をよくしている」と自己評価した生徒の割合は62％であった。4月、9月に学習量・進路希望調査を実施しているが、4月→9月で学習時間が1年生は激減、2年生は微増、3年生はかなり増加している。1年生は部活動に費やす時間が増え学習時間がうまく確保できていないと考えられる。2年生は中たるみもあるが進路希望が確定している生徒は目標をもって計画的に学習する者が増えつつあるのではないかと期待している。3年生は受験生という自覚ができてきたからだと考えられる。	生成AIの研修や成績下位層の底上げ対策を進め、1年次からキャリア教育を充実させることが重要である。 校風（文武両道）を目指し、部活動時間と家庭学習時間の相関を分析する。 1年生の学習時間の激減を改善し、保護者の関与を強化する。 進路情報提供の改善策として「生徒自身に考えさせる時間」を取り入れ、アプローチを工夫する。 部活参加率が高い本校でも国立大進学者の増加を期待する。	B
	進路情報の提供の充実	進路ニュースを定期的に発行すること、進路講演会やキャリアセミナーを開催することで、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し、進学意識の啓発を促す。	学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が 4：80％以上であった。 3：60％以上であった。 2：40％以上であった。 1：40％未満であった。	4	大学入試に関する情報や校内の進路行事などを紹介し、進学意識の向上を図りたいと考え、進路ニュースを月1回程度発行しているが、生徒が隅々まで読んでいるか、保護者の手に渡っているかどうかは不明である。学校評価アンケートで「情報提供が進路決定に役立っている」と答えた生徒の割合は93％であったが、保護者は78％で保護者は「わからない」と答えた割合も高かった。担任には「保護者にも見せて」とお願いしているが、今後も学校HPやクラスルームなどを通じて発信していきたい。 5月に各学年とも進路講演会を実施し、3年生は小論文講演会も実施した。夏休みに保護者対象進路講演会も実施、参加者からは好評を得た。2年生対象の高大接続事業や1年生対象のキャリアセミナーでも進路意識が高まったのではないかと考える。		
総務	情報提供の充実	ホームページやマチコミメール等を十分に活用して、積極的な学校情報の発信に努める。	学校評価アンケートの「学校情報発信に関する」項目で肯定的評価が 4：80％以上であった。 3：60％以上であった。 2：40％以上であった。 1：40％未満であった。	4	ホームページやマチコミメールは、よりきめ細かく情報発信ができるように、スピード感を持って取り組んでいるところである。マチコミメール登録もほぼ完了し、臨時休校等の緊急時にも、なるべく迅速に対応できるようにした。ホームページは、保護者や同窓生、今後本校受験を考えている中学生にも興味を持てる内容となるよう、その構成と発信のスピード感に気を配って行きたい。学校アンケートは12月に実施したが、全体的には肯定的な意見が保護者も生徒ともに多かった。	引き続き魅力を発信し、中学生に選ばれる学校を目指すべきである。 電子書籍の利便性を認めつつ、紙の書籍を推奨する姿勢に共感する。 目の健康を考慮し、活字の本を読むことで文章力も向上する。 夢の実現に向けたサポート体制をアピールし、取組を進め、改善に努める。	A
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた蔵書を整え、特に生徒については、読書習慣の定着を図り、本の貸出の増加に努める。	今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の 4：50％以上であった。 3：40％以上であった。 2：30％以上であった。 1：20％以上であった。	4	学校図書館の役割（1学習センター、2情報センター、3読書センター）を教員に周知し、選書方針も、それらがバランスよく反映されるように工夫した。生徒の読書離れや、読書の形態の多様性（電子書籍等）も考えながらも、まずは図書室への来室、貸出率の増加を図るため、生徒による選書、購入希望図書調査、図書新聞の発行や読書会開催（クラス）を通じて本校図書室の魅力をアピールすることに努めた。全校生徒50％に貸し出しをするという目標には到達したが、読書の楽しさに気づかせ、習慣化を図るとともに、図書室をより利用しやすいものにすることが今後の課題である。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15％以上2年生25％以上3年生35％以上をめざし授業の充実を図る。	4：3学年とも目標以上であった。 3：2学年において目標以上であった。 2：1学年において目標以上であった。 1：全学年とも目標に達していない。	3	1年生28％、2年生18％、3年生38％であった。1年生は非常に高い数字を出しているので継続させたい。2年生では、目標達成できなかったが、授業等に持久走を取り入れた。部活動等で主力となる2年次からは体力向上が見込まれる。3年生は、自主性が出てきていた。	学習習慣の定着を図り、体力テストの時期を調整し年2回実施を検討するべきである。 体力向上と食習慣改善を継続し、保護者や養護教諭と連携することが必要である。 学級閉鎖時も自己健康管理の重要性を早期に身につけることが大切である。 運動部活動では猛暑対策を徹底し、生徒の安全に配慮するべきである。 これらの取組を継続し、改善に努めることが求められる。	B
	学校安全の徹底	①手洗い、うがい、換気等をおこない、感染症防止に努める。 ②体育的行事において体育用キャップの着用や水分補給を十分に行い熱中症対策に取り組む。 ③自分の健康状態（メンタル含む）の把握に努める。	年度末アンケートを実施し、「手洗い、うがい、換気等をおこない感染症防止に努めた」、「体育的行事においてキャップ着用や水分補給を行い熱中症対策に努めた」、「自分の健康状態を把握するための具体的な活動ができた」の3項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70％以上の項目数により、以下のように評価する。 4:80％以上であった。 3:60％以上であった。 2:40％以上であった。 1:40％未満であった。	4	年度初めに感染症対策を促してきた。しかし、年末にインフルエンザが増えた。コロナウイルス感染症も出たため更なる手洗い、うがい等の具体的な取り組みや意識の啓発を行っていく必要がある。 熱中症対策については行事における運営方法の見直しを図りながら効果的に行うことができた。 アンケート調査結果についても約9割の生徒が健康に関する関心をもち、能動的な取り組みができていたように思う。しかしながらメンタル面に関する課題は山積しており、心技体が整った健康状態が維持できるよう指導していきたいと考えている。		
1年	進路実現のための基礎作り	①基本的な生活習慣を確立させるため、掃除の徹底や整理整頓を呼び掛け、かつ学習習慣の定着を図るため、週末課題を定期的に出し、学年集会、学年だより等を通し、生活、学習、進路に関する情報発信、指導を行う。 ②学校行事、HR活動、授業、部活動等を通じて、主体的、計画的な行動を身につける。 ③挨拶、会話等を通じ、コミュニケーション能力を育てる。 ④担任や教科担当、部活動顧問との連携を密にし、報告・連絡・相談を徹底させる。	年度末アンケートを実施し、「基本的な生活習慣が確立できた」、「学習時間を平日2時間、休日4時間、確保できた」、「主体的に活動できた」、「計画的に活動できた」、「コミュニケーション能力が高まった」の5項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70％以上の項目数により、以下のように評価する。 4：4項目以上であった。 3：3項目であった。 2：2項目であった。 1：1項目以下であった。	3	1月に振り返りアンケートを実施した結果、各項目に対する割合Aの値は次のようであった。（回答率　％）「基本的な生活習慣が確立できた」77.4％、「学習時間を平日2時間、休日4時間確保できた」15.8％、「主体的に活動できた」79.4％、「計画的に活動できた」53.2％、「コミュニケーション能力が高まった」78.9％、5項目中3項目が70％以上であり、達成度は3であると診断する。 豊浦高校生としての自覚が次第に身についてきており、基本的な生活習慣の確立やコミュニケーション能力の向上への意識が高まっている。一方で学習習慣の確立については極めて不十分であり、生徒自身もそのことを自覚している。すべての教科において、主体的に取り組む課題の設定など、学習に向かわせる工夫を施していくことが必要である。	学年経営が順調であり、取組の継続を望む。 学習意欲の低い生徒は将来像が描けていないため、地域貢献や外部とのコミュニケーションを通じて進路を見つける手助けが必要である。 気持ちに余裕のあるうちに生活や学習パターンを身につけ、基礎学力を高めるべきである。 本年度の取組に対する評価や課題点、次年度の改善策が具体的に示されており、課題解決に向けて対応可能と判断している。 引き続き改善に努めてほしい。	B

2 年	将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組める生徒の育成	①学習習慣の確立 ・主体的に授業へ参加し、予習・復習を徹底する（予習→授業→復習のサイクルの確立）。 ・定期考査や模擬試験のやり直しを徹底する。 ・朝学等で小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ②明確な進路目標の設定 ・LHRや探究活動等において、生徒一人ひとりが自らの将来に向き合い、進路目標を設定できるようにする。 ③基本的生活習慣の確立 ・「時を守り、場を清め、礼を正す」といった意識をもつとともに、他人を思いやる気持ちやコミュニケー	年度末アンケートにて、「将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組むことができた」と回答した生徒が 4：75%以上であった。 3：50%以上75%未満であった。 2：25%以上50%未満であった。 1：25%未満であった。	3	以下の項目（重点目標と①～③）について、生徒の自己評価（4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった）を実施した。 ＜項目＞ 重点目標「将来を見据えた明確な進路目標を持ち、実現に向けて取り組める生徒の育成」 ① 学習習慣の確立について（3つ） （ア）主体的に授業に参加、予習・復習を徹底（イ）定期考査や模試のやり直し（ウ）朝学の徹底（基礎学力の定着） ② 進路目標の設定について ③ 基本的生活習慣の確立について ＜結果＞ 関連する質問内容で、評価 4、3 と回答した生徒の割合は、 ・進路目標への意識 92.8% ・家庭学習への取り組み 58.9% ・基本的生活習慣の確立 94.7% したがって、達成度「3」と判断した。自らの進路実現に向けてのイメージはできつつあるが、それに見合った努力が不足しているのはアンケート結果から明らかである。高校生活の充実度と学習の成果が比例していないのが残念に思われる。	体力向上の課題を中高で共有し、長期的な取組について議論するべきである。アンケートで学習習慣が他学年より低いことが気になる。学習指導と生活指導を引き続き熱心に取り組むべきである。能力の高さと理系・文系は関係がなく、本人が望む進路を目指すべきである。保護者も生徒の将来像について一緒に考えるべきである。	B
3 年	未来を描き、幸せに生きるための力の育成	①学習習慣の確立 ・主体的に授業へ参加し、復習を徹底する。 ・Classiを活用し、個別最適な学習により苦手分野を克服する。 ②進路目標の設定とその実現 ・総合的な探究の時間等を活用し、進路実現のための情報を収集し、実現に向けて取り組む。 ③基本的生活習慣の確立 ・欠席・遅刻をしない、時間厳守、掃除の徹底、提出物期限厳守に取り組む。	年度末アンケートにて、「学習習慣の確立に取り組んだ」「進路目標を設定し、その実現に取り組んだ」「基本的生活習慣の確立に取り組んだ」と回答した生徒が 4：75%以上であった。 3：50%以上75%未満であった。 2：25%以上50%未満であった。 1：25%未満であった。	4	以下の項目（重点目標と①～③）について、生徒の自己評価（4：できた 3：だいたいできた 2：あまりできなかった 1：できなかった）を実施。 ＜項目＞ 重点目標「未来を描き、幸せに生きるための力の育成」 ① 学習習慣の確立について （ア）主体的に授業へ参加し、復習を徹底する。（イ）Classiを活用し、苦手分野を克服する。 ② 進路目標の設定について 進路実現のための情報を収集し、実現に向けて取り組む。 ③ 基本的生活習慣の確立について 欠席・遅刻をしない、時間厳守、掃除の徹底、提出物期限厳守に取り組む。 ＜結果＞ 評価 4、3 と回答した生徒の割合は、 重点目標 96.3% ①（ア）復習の徹底 96.3% ①（イ）苦手分野の克服 59.0% ② 進路目標の設定 97.5% ③ 基本的生活習慣の確立 87.0% したがって、達成度「4」と判断した。しかしながら、①（イ）「苦手分野の克服」については達成率が低く、学習習慣の確立や学習時間の確保が課題である。	3年生で12月に家庭学習をあまりやらない生徒が20%近くいるのは問題である。学習指導の成果が上がっているが、幸せに生きる力の育成と学習偏重には違和感がある。目標と評価基準がかみ合っていないが、具体的なわかりやすい目標を設定するべきである。目標は高く持ち、妥協せず、自分の進みたい道を目指すべきである。クラッシーの活用ができていない生徒は苦手分野を克服できていない可能性がある、判定は厳しく考えるべきである。	B
地域連携	地域に期待され信頼される学校づくりの推進	地域社会や関係機関と連携した教育活動を充実させる。	教育活動を実施した回数が 4：15回以上であった。 3：10回以上であった。 2：5回以上であった。 1：5回未満であった。	4	長年下関市、長府まちづくり協議会、長府体育協会、長府ライオンズクラブなど地域の団体と連携し、各種行事・ボランティア活動にも引き続き参加した。また、卒業生による1年生対象のキャリアセミナー、2年生対象の大学等との連携による学校説明会を実施した。 昨年度に引き続き、長府中学校・豊浦小学校との熟識へ生徒会役員が参加した。 今年度は、「やまぐち型社会連携教育推進事業」において、2年「総合的な探究の時間」で大学教員、市役所職員の方々（9名）に講師として来ていただき、探究活動での指導・助言をいただいた。 これらのすべての活動は、生徒にとって大きな学びとなった。	一部の教員だけでなく、全教職員への意識づけをする必要がある。探究活動のプレゼンを小中学生にも披露するべきである。豊浦高校は在校時も卒業後も地域の諸活動に関わり、地域に信頼されている歴史がある。今後も縦と横のつながりを大事にするべきである。卒業生のネットワークを活用し、人材育成教育を充実させるべきである。生徒の地域社会貢献の取組は高く評価されており、引き続き積極的な活動をお願いする。吹奏楽部の活動に生徒会やPTAを巻き込むべきである。	A
事務	安全安心な教育環境整備	施設設備の危険・不具合箇所について、早期に対応する。 予算の効率的な執行により、最大限の効果を上げる。	危険箇所の発見及び連絡を受けて、 4：1週間以内に改修した。 3：2週間以内に改修した。 2：1か月以内に改修した。 1：不十分で早期に補修できなかった。 事務計画に参加し、目的に沿った予算運営の達成率が、 4：90%以上であった。 3：80%以上であった。 2：70%以上であった。 1：70%未満であった。	4	危険・不具合箇所の様態に応じて以下のとおり対応し、事故の未然防止等に努めた。また定期的な校内巡視を行った。 ①校務技士等職員で修繕可能な箇所は、直ちに対応 ②特殊、専門性を有する箇所は選定業者と調整のうえ早急に改善等を実施した。 ③予算措置の必要な案件については、県に早急な対応を要望。今年度は食堂棟屋根応急工事、テニスコート奥のネットフェンス改修工事等を実施。 教員と事務職員で連携を図りながら、県の行財政改革の方針に基づき、効率的かつ効果的に予算執行に努めた。 また、県に緊急で予算措置が必要なものや、要望できるものについては適宜予算措置をしてもらい、予算を有効的に運営することができた。	事故防止のため生徒への注意喚起を徹底するべきである。計画的に修理を進めることが必要である。今後も安全安心な教育環境整備に取り組むべきである。修繕箇所については、事故が起こってからでは遅いため、県に状況をつつかりと報告するべきである。定期校内巡視を行い、事故未然防止に努めることが重要である。予算化が難しいが、教育に支障が出ないようにする必要がある。積極的な取組を評価し、予算確保に引き続き努めるべきである。	A

8 次年度への改善策	
教務	授業力向上のために、他校（高校に限らず中学校も）の公開授業や中高連携事業等を通して、授業研究の機会を積極的に利用する。また、校内における他の教員の授業見学の機会を設け、授業力の向上やＩＣＴの活用、改善への取り組みができるような研修に積極的に取り組んでいきたい。
生徒	登校指導、警察やその他専門機関と緊密に連携し生徒の安全確保に努めたい。重点的に対応しなくてはならない案件については、全校集会などを通じて生徒達に呼びかけていく。教育相談に関しては多くの教員、ＳＣと連携を図り、早期対応・早期発見に努め真摯に対応していく。しかし、不登校の生徒や欠席の続く生徒が年々増加傾向にある。ケース会議などを通じて生徒一人ひとりの特性を把握し、全教員で情報を共有する中で個々の生徒への対応を考えていく。コミュニケーションの基本である挨拶について改善を図りたい。教員側から積極的に笑顔で挨拶し、生徒達に範を示していくことが重要である。
進路指導	生徒が進路に対して自らがどうあるべきかを考える時間を増やしたい。とくに「総合的な探究の時間」の充実により進路探究を深めるとともに、進路講演会やLHR、大学見学などを積極的に行うことで視野を広め、進学意欲の向上を図りたい。また、実践する教員側の進路意識向上とスキルアップを今以上に高める機会を設けたい。
総務	豊高ホームページについては、魅力ある豊浦高校を、豊浦高校に興味を持つ中学生やその保護者、また在校生やその保護者、多くの卒業生に発信できるよう、内容を吟味しながら、さらなる質の向上に努めたい。また、PTA総会は、総会の出席率を少しでも上げられるように、総会が保護者にとって魅力あるものとなるよう、従来のやり方にとらわれず、他校のやり方も参考にしながら、その内容を模索していきたい。今後も学校評価アンケートを通して、保護者の希望や改善要求といった生の声に耳を傾けながら、学校からも保護者が本当に欲しい情報を、ホームページやマチコミメールを通じて発信していきたい。
保健体育	体力向上については体育的行事や授業、運動部活動のさらなる充実を図り、多くの生徒が運動に関する興味・関心が持てるようにしていきたい。健康安全面については感染症対策、暑熱対策を継続実施し、学校生活を安心して送ることができる環境づくりに取り組んでいきたい。また、自分の健康状態を把握しメンタル面も含めて能動的に生活ができるよう指導していきたい。
1年	アンケートからも学習量の不足を自覚している生徒が多数いる状況の中で、具体的な時間の使い方・学習方法を指導することが必要である。この指導は、ＨＲ担任や教科担当者が部活動顧問と連携を取りながら行っていくことが有効であると考える。また、学年としては、ＬＨＲや総合的な探究の時間を通して、進路実現のための具体的な情報収集・対策を指導し、進路への意識をさらに強く持たせることで学習への意欲を強めていくことが重要である。
2年	理系科目が得意でない生徒が理系に進んでおり、学習面でかなり苦労しているのは否定できない。本人・保護者の希望であるので致し方ないが、現実を見据えての指導、能力に見合った努力を促す指導が今まで以上に必要になっていくと考える。「文武両道」の本校の伝統は継承しつつ、さらに質の高いものにする姿勢を全校で共有できるようにしていくことが理想である。
3年	進路実現に向けて、早いうちから目標を設定し、取り組む必要がある。ＬＨＲや総合的な探究の時間を活用し、自分の進路について深く考えながら学校生活を送ってほしい。進路実現のため、勉強と部活動の両立を心掛け、学習習慣の確立や「学年＋２時間」の学習時間を確保できるような取組が必要であると考える。次年度も生徒の進路希望を実現できるようにサポートしていきたい。
地域連携	今年度「やまぐち型社会連携教育推進事業」によって追加した取組については予算も確保できたが、次年度は予算がつかない。次年度以降、大学や市役所など地域の関係機関へのお願いがどのようにして実施できるのかを検討する必要がある。コミュニティ・スクールの仕組みを生かした活動や、学校全体で地域連携に関わっていく体制づくりの構築が必要である。また、学校と地域・関係機関が相互に関わることができる教育活動を設定し、さらに地域との連携を高めていく。
事務	修繕必要箇所が多発しているため、優先順位、必要性等を勘案し、一層効率的な予算執行を図り、事故防止に努める。要望しているが予算化されていない案件についても積極的に県に相談し、予算の確保に努めていきたい。
業務改善	業務内容の見直しをすることが課題であるが、教職員一人ひとりの「納得」が必要であり、教職員自身の意識の向上を図り、実現のために職場環境を整えていく。教職員の健康管理については、再検査自体の減少のための勧奨をし、再検査の受診率も１００％とする。